

災害に強い水道を目指して

自然災害の中でも地震は突然襲ってきます。水道にとっても地震による被害の発生は脅威となります。地震の発生を防ぐことはできませんが、発生後の被害を最小限に抑えるためには、普段からの備えが大切です。

震災対策での水道の基本は、みんなの生活を守るために「水の安定供給」です。ここでは、震災に備えて村が行っているさまざまな取り組みとご家庭での備えをご紹介します。この機会にご家庭で「もしもの時の備え」を考えてみてはいかがでしょうか。

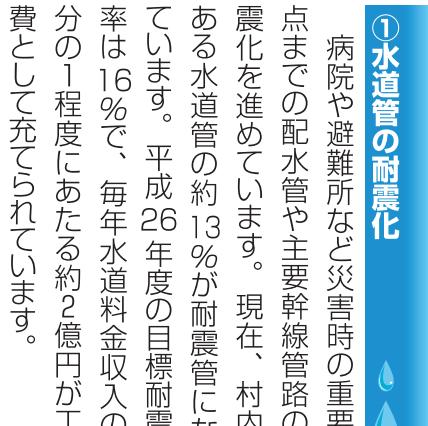
②緊急貯水槽の設置



水道管の耐震化を進めています

災害時の給水拠点として耐震性緊急貯水槽をふるさと交流館敷地内に整備したほか、村内の一部の小学校の受水槽も給水拠点として利用できるよう改修しました。

①水道管の耐震化



病院や避難所など災害時的重要拠点までの配水管や主要幹線管路の耐震化を進めています。現在、村内にある水道管の約13%が耐震管になっています。平成26年度の目標耐震化率は16%で、毎年水道料金収入の4分の1程度にあたる約2億円が工事費として充てられています。

⑤他都市との応急支援体制



容量2,000ℓの給水タンク車

万一路で断水した場合に応急的に給水できる施設として、拠点給水基地（配水池7箇所）と応急給水拠点（次ページで紹介）を設けているほか、盛岡市とお互いに水融通ができるよう相互連絡管（2箇所）を設置しています。

③緊急遮断弁の設置



災害時などの急激な水の流れを感じし、応急給水用の水道水を確保するため、配水池の流出部分に緊急遮断弁を設置しています。

⑥応急給水対策



震災などで断水した場合に応急的に給水できる施設として、拠点給水基地（配水池7箇所）と応急給水拠点（次ページで紹介）を設けているほか、盛岡市とお互いに水融通ができるよう相互連絡管（2箇所）を設置しています。

るよう、近隣他都市と相互応援協定（職員の派遣や必要な物資の提供）を結んでいます。

また、村では運搬給水用の給水タンク車や非常用給水ボリ袋、応急復旧に必要な資材や器具などを常備しています。